全国女性会館協議会　第 69 回全国大会 in おおた　実施報告書

1	日　時	2025 年 7 月 30 日（水）13：00～17：15、7 月 31 日（木）9：30～12：30
2	会　場	7 月 30 日（水）… スマイル大森地下 2 階　多目的室（大） 7 月 31 日（木）… 分科会：大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」 全体会：スマイル大森地下 2 階　多目的室（大）
3	主　催	特定非営利活動法人全国女性会館協議会 大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」
4	共　催	大田区
5	協　賛	日本テトラパック株式会社
6	主　題	センター業務に反映させるため第 6 次男女共同参画基本計画の方向性を理解する
7	募集方法	①会員館へ募集チラシをメーリングリストでの配信 ②大田区内および都内男女共同参画センターにチラシを配布 ③ホームページ（エセナおおた、ジェンダー平等 Labota 等）
8	1 日目 プログラム	7 月 30 日（水）13：00～17：15 **（1） ウエルカムステージ** ラトレ＆ラトレキッズ合唱団による楽器演奏と歌 大田区に長年住んだ村岡花子さんにちなんで子どもたちが「花子とアン」の主題歌を手話を交えて歌ってくれました。 **（2） 開会行事**

◆来賓挨拶　　**※以下、敬称略**

内閣府男女共同参画局　局長　　岡田　恵子

文部科学省総合教育政策局　局長　塩見　みづ枝

◆主催者挨拶

大田区　区長　鈴木　晶雅

全国女性会館協議会　代表理事　納米　恵美子

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」センター長　中山　良恵

（３） イチオシ事業大賞表彰式

プレゼンター：表彰状（全国女性会館協議会　代表理事　納米　恵美子）

目録（日本テトラパック株式会社コミュニケーション部マネージャー　毛受　彩）

大　賞：浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センターあいホール

「つながって　仲間になって　一緒にやる　若者とコラボレーション」

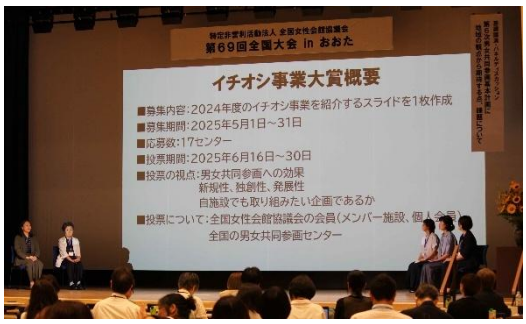
２　位：くにたち男女平等参画ステーションパラソル

「啓発事業　ゼロからはじめるパネル展示/作成」

２　位：熊本市男女共同参画センターはあもにい

「令和６年度これからの男性の生き方に関する講座 <はあもにいメンズカレッジ>

『高橋源一郎氏講演会　～これからの男の生き方を考える～』」



（４） 基調講演

「第６次男女共同参画基本計画に地域の観点から期待する点、課題について」

講師：白波瀬　佐和子（東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）

【概要】

2000 年から５年ごとに策定されている男女共同参画基本計画がどのように変遷してきたかの解説の後、第 ６ 次基本計画に向けた課題として「意思決定の立場にある女性数の少なさ」「個々の事情や希望に応じて働くことのできる環境の整備」「女性に選ばれ、女性が活躍できる地域づくり」「個人の尊厳を厳守し、安全・安心な社会の実現」「社会構造の変化と価値観の多様化」が挙げられました。計画策定に当たっては「何をポイントとするか」「PDCA サイクルの検証」「計画のための計画になっていないか」に留意しながら進めていく必要があること、住民に近い社会サービス供給主体として声を上げていくことの重要性が述べられました。また、多様な地域の環境や実態をどう国レベルの計画に反映させていくべきかという課題が提示されました。

（５）パネルディスカッション

パネリスト：櫻井　彩乃（一般社団法人 GENCOURAGE 代表理事）

常見　陽平（千葉商科大学基盤教育機構准教授／働き方評論家）

納米　恵美子（全国女性会館協議会代表理事）

コメンテーター　：白波瀬　佐和子（基調講演講師）

コーディネーター：柴田　美代子（全国女性会館協議会常任理事）

【概要】

はじめに納米さんより、前日に提出された第 6 次計画の骨子案に対して「ジェンダー主流化は計画全体の基本的な視点に記載されるべきであり、主流化のためにはジェンダー統計の整備が必須」「女性が非正規での働き方を『自ら希望・選択』する背景にあるジェンダー問題を解決する必要がある」「地方公共団体がセンターに必要な人員及び予算を確保するという文言を入れてほしい」という意見が挙げられました。

骨子案に対して、櫻井さんからは「課題が複雑化しており計画を読み解くのが難しい」「国が目指すものと自治体の課題とのギャップがあり、現場は戸惑うのではないか」「個人の能力や経済成長がメイン。人権やリプロに焦点を当てることも必要」「若年層の課題にも目を向ける必要がある」等の意見が出されました。また、常見さんからは会場の参加者に対して「この案を聞いてワクワクするか？」との問いかけがなされたうえで、「社会を前に進めていこうという躍動感が感じられない」「6 次計画の目玉が何なのかわからない」「民間の努力でできることには限りがあり、『男性稼ぎ手モデル』の社会保障制度を変えていく必要がある」という意見が出されました。

その後、常見さんから男女センターへの期待として「とことん敷居が低く相談しやすいところであってほしい」「働き方改革の揺り戻しへの警鐘を」「民間のベストプラクティスも取り入れていく」ことが提示されました。

また、櫻井さんからは"若者×センター"の実践報告・提案があり、これまで現場を支えてきた世代が新たなやり方で次の世代につないでいく必要性が語られ、若者との接点をつくるための具体策が提示されました。

質疑応答では、地域の自治会・町内会等に根強く残る性別役割分担の問題、男性への意識啓発の重要性、誰のための計画か？等のテーマが挙げられました。

最後に白波瀬さんからのまとめとして、センターのあり方は多様でありグッドプラクティスを横展開していけると良いという提案と、男女共同参画・ジェンダー平等＝人権の問題であることは大前提としたうえで、それを施策として実現させていくための予算確保においては、経済効果など別の視点から説明する必要もあるだろうというお話がありました。

（6） 情報交換会 18：00～19：30

Luz 大森 4 階 入新井集会室　参加者 74 名

9	２日目 分科会 全体会	7 月 31 日（木）9：30～11：30 **（１）分科会** ①分科会１ 「災害時に備えてセンターでできることを考える」 ●情報提供者：浅野幸子（減災と男女共同参画研修推進センター共同代表） ●事例報告者・ファシリテーター：岡智子（特定非営利活動法人ジェンダー平等 Labota　理事長） 【ディスカッション発表内容】 ◆災害時に備えて、今センターでできていること、やっていること ・ジェンダー視点での防災講座 ・市の関係職員に防災（連続）講座をオンデマンドで配信している ・地域包括支援センターへ出前講座を開催 ・パネル展示、防災グッズの展示など ・備蓄品確保 ・職員向けに意見交換会を開催 ・子どもと段ボールを使った防災グッズなどを作る、ＶＲゴーグルを使っての防災講座 ・子ども食堂での防災食の提供 ・リーダー層の女性の動きを止めないよう、話し合いをしている。その声を危機管理課に投げかけている ◆これからセンターでできそうなこと、取組みたいこと ・防災訓練 ・教職員との連携 ・備蓄品確保 ・女性職員が災害時に即行動ができるように、警察や薬剤師会などと連携したい ・子ども食堂ネットワークを用いて、被災者へ何ができるか考える ・高齢者、ひとり暮らしの方が孤立しないような声掛け ・地域とのコミュニケーション ・他のＮＰＯと連携して参加協力があれば、防災講座をやっていきたい ・災害時でも相談事業を維持できるように考える ・自治会は男性が多いため女性が入りにくい。女性が参加しやすいように考える ・災害が起こった時に、避難所の各スペースをどのように利用するか考える ②分科会２ 「困難を抱える女性の対応を知り、センター事業に活かす」 ●情報提供者：飯島裕子（桜美林大学准教授、ノンフィクションライター） ●事例報告者：近藤博子（一般社団法人ともしび at だんだん代表） ●ファシリテーター：阪口さゆみ（全国女性会館協議会常任理事）

		【ディスカッション発表内容】 ◆感想、実施している居場所事業、課題 ・尼崎では働きづらさに悩む女性向けに「夜カフェ」を開催。対象を絞っていて良い。 ・居場所事業を実施していないセンターでも、センター内のフリースペースで情報発信ができるとよいのでは。 ・単身女性、シングルマザーなど女性向けの居場所事業は何かしら実施している。 ・働きづらさや働くとは何か？をテーマにした男性向け講座から、話せる場があること、しんどさを共有できることの大切さや、コミュニケーションを求めているのは男性も同じとわかった。 ・佐賀の取り組み 「女性のためのほっとカフェ」生理用品配布、生活物資の提供、社会福祉士による相談など。 ・子ども食堂 コロナ禍で集まって話すことができず、困っている人ほど孤立しがち。 ・シングル女性向けの居場所事業など、リピーターの方へいつまで、どこまで支援を続けるかという課題もある。 ・予算獲得の難しさも課題。行政の中で連携していくことも必要。 ・男女共同参画部門と福祉部門の連携がうまくいく場合もあれば、うまくいっていないところがある現状。 ・どんな支援ができるか。カテゴライズされていない悩みについては相談から解決にいたるまでが難しいところが課題。 ・行政の相談にはジェンダー視点が不足している部分もあり、相談員に向けてジェンダー視点をふまえた研修が必要。 ◆広報について ・広報において効果的なのは区設掲示板のポスター。 ・子どもたちも見てくれている。あらゆる年齢層に届くようにしたい。 ・情報を効果的に届けるため、高齢者も利用率が高い LINE を利用。意外と口コミや掲示板も効果的。 ◆男女センターとしての役割、できること、課題 ・行政との連携が難しい。女性の困難さは多岐にわたるため、他の団体とともに支援を進めていくことが大切。 ・男女センターは何をやっているかわからない。若者～高齢者まで関われると良い。大学生による学習支援を行うなど。 ・社会課題を見える化することが大事。 ・「私なんかが行っていいのかな？」という方に向けて、来て良いという理由を作るテーマを工夫する。 ・演劇体験から女性が自分の話ができるような体験型、参加型の場づくり。 ・くにたち事業「ソロですが」が好評だった。 ・民間の方と連携していくことが必要。 ・気軽に立ち寄れるセンターを目指す⇒相談しやすい場所。市民のニーズをくみ取りながらできると良い。 **② 全体会 全国女性会館協議会より事業説明と連絡** （2025 年度事業概要説明）

10	参加者数	7月30日（水）全国大会1日目 ・開会式・基調講演等参加者数 132人（関係者含む） （全国女性会館協議会会員 103人、一般参加者 17人、来賓・関係者12人） ・会員館数 41館 7月31日(日）全国大会2日目 ・分科会1 48人（他、講師・スタッフ4人） ・分科会2 42人（他、講師・スタッフ5人）
11	感想 アンケート	1．基調講演及びパネルディスカッション等のアンケートについて 回答：女性60人、男性12人、答えたくない2人、回答なし5人 計79人 （1） 第6次男女共同参画計画の方向性について（複数回答） 回答 ①理解が進んだ 52人 ②センター業務に反映させたいと思った16人 ③パブコメ等で声をあげようと思った22人 ④理解が進まなかった 5人 未記入 6人 （2） 基調講演の満足度とその理由 回答 ①100% 17人 ②99～90% 18人 ③89～80% 21人、④79～70% 6人 ⑤69～50% 8人 ⑥49%以下 3人 ・基本計画の変遷や見るべきポイントを非常にわかりやすくご説明いただけて大変勉強になりました。 ・第1次～6次までの成り立ちがわかり、また基本計画の重要性も勉強になりました。 （3） パネルディスカッションの満足度とその理由 回答 ①100% 20人 ②99～90% 17人 ③89～80% 17人、④79～70% 9人 ⑤69～50% 1人 ⑥49%以下 4人 ・改めてジェンダーの問題は多岐に亘っていることを実感しました。いくつかの分野に分けて、同時進行で実現していかないと、また何十年も遅れてしまうのではないかと危機感を覚えます。まずは男女センターで男女ともに子どもが参加したいと思うイベントや講座を考えてみたいと思いました。いろいろな違った立場の人の意見を出すのが大切ですね。一生懸命やるだけでは足りないという白波瀬さんの言葉が胸に残りました。 ・第6次基本計画について理解が深まり、より興味が持てた。基本計画を読み込んでみます。納米さんの説明がわかりやすかったです。 2．分科会のアンケートの状況について （1）分科会1 「災害時に備えてセンターでできることを考える」 女性33人、男性4人、答えたくない0人、未記入2人 計39人 回答 ①100% 27人 ②99～90% 8人 ③89～80% 4人 ・浅野さん、岡さんの話がわかりやすく、防災避難所運営に男女共同参画視点の重要性がよく理解できたし、能登の今が知れて良かったです。 ・全国各地のセンターの職員のみなさまのご活動を直接知ることができ、また直接顔をあわせてお話できたことが嬉しかったですし、学びにもなりました。 ・具体的に知ることができて企画を立てる時の良いアイデアをつかめました。グループワークがとても興味深かったです。

		（２）分科会２ 「困難を抱える女性の対応を知り、センター業務に活かす」 女性 22 人、男性 6 人、答えたくない 0 人、未記入 2 人　計 30 人 回答　①100%　15 人　②99～90%　12 人　③89～80%　3 人 ・様々な分野で活動するのも必要だが、センターがセンターとしてやれることを考えなければならないと考えた。特に相談について、どのように処遇改善をはかり、困難女性をつなげるかを考えた。 ・グループワークで、これからのセンターで困難な女性についてどのような支援ができるか考える機会になった。 ・各地の男女センターの先進事例もグループワークで情報交換でき、参考になった。
12	主催者 感想	いままで 69 年の全国女性会館協議会・全国大会の歴史の中で、初めて大田区で開催したことを心から嬉しく思っております。特に①2024 年 12 月に単独館から複合施設に機能移転をし、新しくなった「エセナおおた」にジェンダー平等をめざす全国の仲間の皆様に参加いただけたこと、②大田区との共催で開催できたこと、③複合施設の利点をいかし、全体管理者と打合せをしながら、地下の多目的ホールで初日のプログラムを開催できたことは、「エセナおおた」の大きな成果です。 また企画内容としては、策定途中の第 6 次男女共同参画基本計画について、初日は策定委員の登壇者から意見を聞けたこと、またパネルディスカッションではさまざまな意見を聞くことで計画の方向性が理解できたと感じました。さらに翌日の分科会では、6 次計画を深堀りするため、「防災」と「困難を抱える女性」という男女センターにとって取り組むべき課題について、学びを深めることができたと感じました。 コロナ禍を経て、志を同じくする全国の仲間とリアルに会って、課題を共有し、どうやってセンター業務にいかしていけるのかという点を考えることができる 2 日間であったことは、「エセナおおた」職員およびジェンダー平等 Labota のスタッフの財産になると考えています。 最後に、2 日間の運営にあたっては全国女性会館協議会の役員の皆様および会員の皆様に多大なるご協力をいただき、深く感謝いたします。皆様の協力があって、全国大会を大田区で開催することができたことが大きな自信につながりました。ありがとうございました。